

小学校6年 自分たちとの「つながり」を実感できる社会科「政治学習」の試み ～対話を重視した学習過程に社会科番組を位置付けて～

仙台市立錦ヶ丘小学校 菅原 翔太

【実践報告の概要】

本研究は、「政治の学習」において、社会と自分とのつながりを実感させることで、進んで社会に関わってほしいとする児童を育成することを目的とした取り組みである。つながりを実感できるということは、社会の出来事を自分事として捉えていくことであり、そのために活用したのがNHK for School「社会にドキリ」である。政治の働きの具体を理解したり、教師の「問い」に対してのヒントを得たり、視聴を通して新たな「問い」を見いだしたりするなど、番組視聴から様々な「つながり」を意識することができた。

【取組の具体】

図1は本研究における基本の学習過程と番組の位置付けである。授業のねらいに応じて番組視聴の目的を変え、位置付けを工夫することで、児童の思考にどういった変容が見られるのか検証していこうと考えた。

視聴位置A 国民主義

「教科書の無償配布」「学校の給食開始」などの取り組みは、国民の主張から実現されたことを番組から理解した。国民としての自分たちの主張の在り方に課題意識をもち、視聴後の展開で生活経験や資料をもとに、主張する上で大切なことについて考えを深めることができた。

視聴位置B 平和主義

「日本はなぜ平和を守り続けることができるのか」という課題に対して自分の考えをもつ手段として番組を視聴し、「語り部活動」「平和式典」などの取り組みについて理解した。政治の関わりに気付いたことは、その後の調べ学習や共有場面における焦点化につながった。

視聴位置C 基本的人権の尊重

男女の育児休業取得率の違いから「基本的人権の理念は本当に実現されているのか」という問いを設定した。男性の取得率が以前より上昇傾向にあることをもとに議論し、「法律や制度の充実」「意識の変化」といった要因に気付いた。その後、番組を視聴し、資料からは読み取ることができない「尊重する大切さ」に気付くことができた。基本的人権の尊重の理念を一層実現していくためには、自分たちが政治に関心を持って関わり、国民一人一人を尊重した政治を実現していく必要があることを理解した。

【活用番組と実践者による番組分析】

活用番組「社会にドキリ」

#国民主義 #平和主義 #日本国憲法

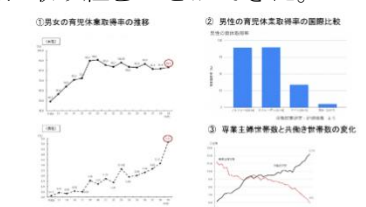
○政治と自分とのつながりを実感できるように、見えない社会の仕組みを紹介してくれるので、政治を身近に捉えさせる上で非常に効果的な教材である。

●政治に対する課題意識をもって学習を進めるためには、オープンエンドの番組構成も必要なのではないかと感じた。

【本実践における工夫点】

「ロイロノートスクール」を活用した対話

コロナ禍の対話手段として、学習支援ソフト「ロイロノートスクール」を活用した。従来の一問一答型の発表より、時間を要せずに全員の考えを共有することが可能になるので、課題に対する考えを広げたり深めたりする上で有効であった。また、必要に応じてデジタル思考ツールを活用することで、思考を整理しながら焦点化した学習活動に取り組むことができた。



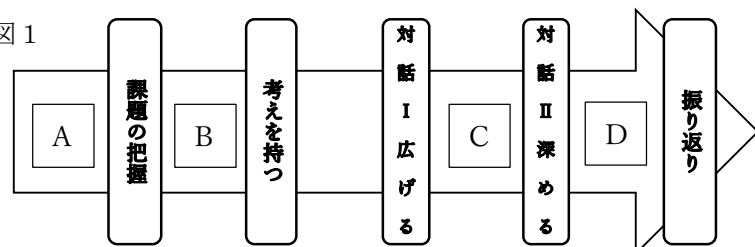
「なぜ」を引き出す資料の提示

政治の基本的知識が不十分な児童にとって、生活経験をもとに議論することが考えられた。そこで、課題に迫るための各種資料を充実させた。生活経験と事実との「ずれ」から「なぜ」を引き出したことが活発な対話活動につながった。

【本実践の成果と課題】

「つながり」を重視した単元構成は、政治参画を意識付ける上で効果的であったが、振り返りの記述が一般的な内容に止まったことが課題である。今後、同様の実践を行う際には、単元の終末に「自分」を中心とした「政治イメージマップ」等を作成し、自分と政治との関わり方を自己評価させることで、課題をより自分事として捉えられるようにしていきたい。

図1



視聴の目的 [実施した授業内容]

- A…課題に気付く。[国民主義]
- B…課題解決の見通しを持つ。[平和主義]
- C…考えを深めるきっかけをつかむ。[基本的人権の尊重]
- D…学習の振り返りに生かす。※今後、実施予定